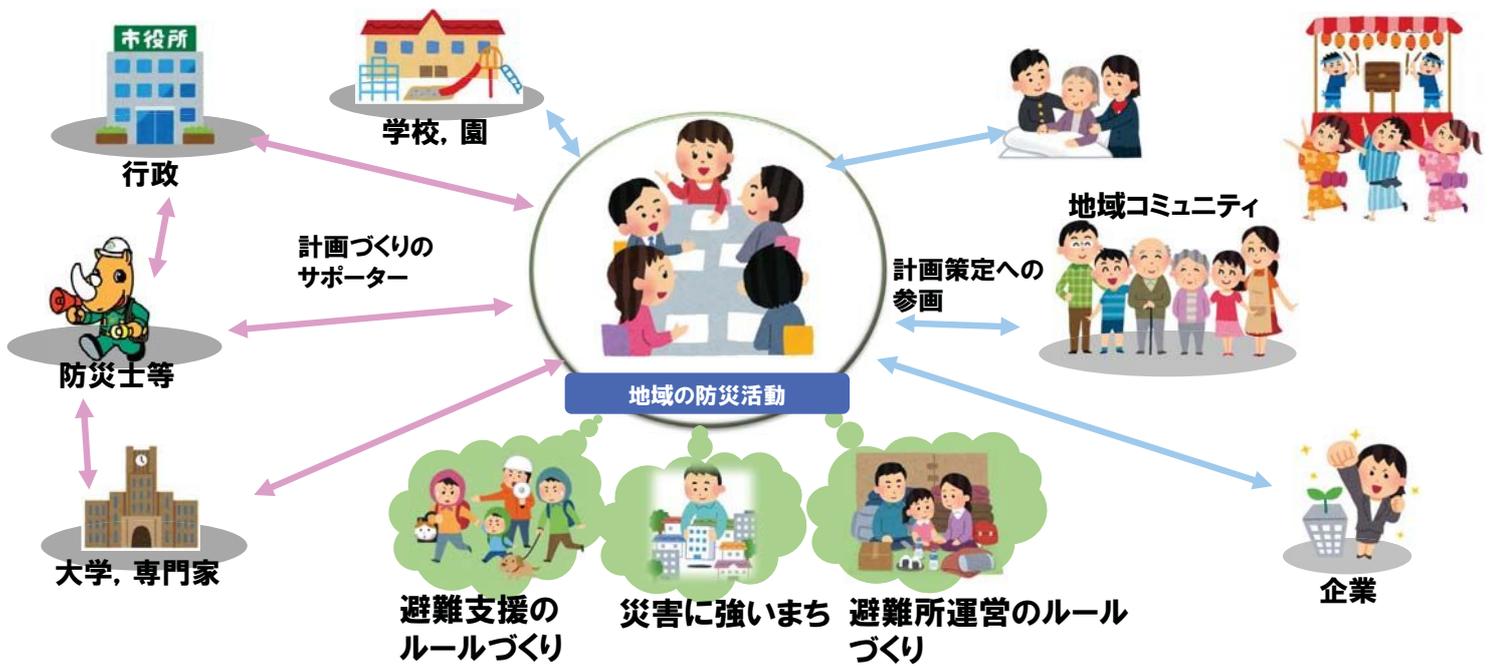




地域の防災をステップアップ みんなで取り組む地区防災計画

香川大学 IECMS地域強靱化研究センター 磯打千雅子

防災から始めるまちづくり まちづくりから始める防災



防災がきっかけになり 目的・目標にもなる

地区防災計画とは？

東日本大震災の教訓をふまえて創設された制度。地区居住者等が主体となって、地域の特徴を活かした災害時の“マイルール”をつくる取り組み。



- ① 地域に詳しい住民や企業, 町内会, 自主防災組織が作成する「地区の特性に応じた計画」
- ② 計画提案制度が採用される「ボトムアップ型の計画」
- ③ 活動の継続を重視した「継続的に地域防災力を向上させる計画」



津山市城西地区



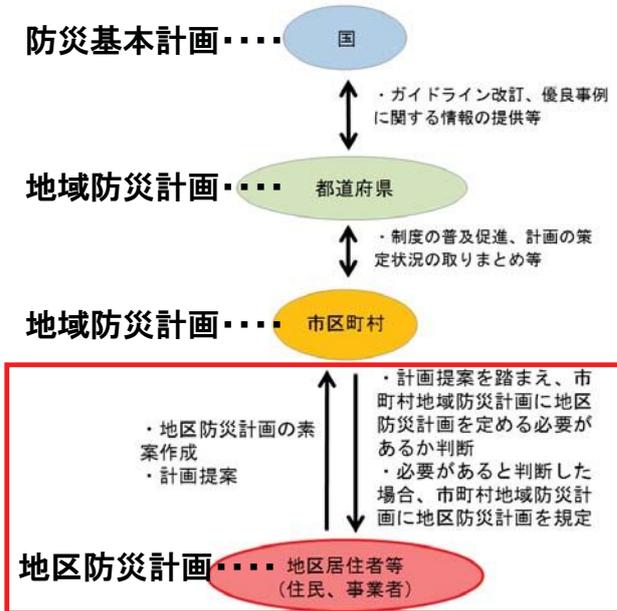
倉敷市真備町川辺地区

地区防災計画の3つの視点

- “**地区防災計画**”の**取り組み**は、地域の特徴を活かした支え合いの仕組みづくり。日頃のあいさつやおつきあいを大切に。
- “**地区防災計画制度**”は、地域を共にする住民, 町内会, 自主防災組織, 学校, 企業, 団体, 行政等の連携が目的。取り組む際は多くの関係者を巻き込むことがポイント。
- “**地区防災計画書**”は、関わる全ての方が「これだけは!」知っておいた方がよいことを文書化。文書にすることで明確化され、多くの方に配る(共有)こともできる。

地区防災計画“制度”とは ボトムアップ型の公的な仕組み

平成25年災害対策基本法改正と地区防災計画制度



- 地区居住者等は、市町村防災会議に対して地区防災計画を定めることを提案することができる。
- 市町村防災会議には、提案に対する応諾義務が課せられている。

出典：地区防災計画ガイドラインに加筆

地域防災計画に反映済み

2,030地区

◆地域防災計画に反映済み：37都道府県、140市区町村、2,030地区
(R2年度に新たに反映された計画 316地区)

※調査対象：市区町村
※R3.4.1時点の集計値
(R4.4.1更新)

都道府県名	市区町村数	地区数
北海道	9	39
青森県	0	0
岩手県	4	32
宮城県	1	11
秋田県	2	16
山形県	1	38
福島県	2	3
茨城県	6	82
栃木県	4	5
群馬県	1	16
埼玉県	6	28
千葉県	1	2
東京都	11	168
神奈川県	5	284
新潟県	3	22
富山県	1	2

都道府県名	市区町村数	地区数
石川県	1	1
福井県	0	0
山梨県	5	529
長野県	11	163
岐阜県	4	16
静岡県	6	23
愛知県	8	12
三重県	3	14
滋賀県	0	0
京都府	2	41
大阪府	2	11
兵庫県	3	133
奈良県	2	5
和歌山県	0	0
鳥取県	1	4
島根県	0	0

都道府県名	市区町村数	地区数
岡山県	3	3
広島県	0	0
山口県	1	7
徳島県	0	0
香川県	4	21
愛媛県	4	32
高知県	3	42
福岡県	2	18
佐賀県	0	0
長崎県	1	9
熊本県	6	158
大分県	0	0
宮崎県	1	1
鹿児島県	10	39
沖縄県	0	0
合計	140	2,030

地区防災計画策定に向けて活動中

5,181地区

◆地区防災計画の策定に向けて活動中(注): **47** 都道府県、**310** 市区町村、**5,181** 地区

(注)市区町村に提案済みだが地域防災計画には未反映分を含む (R2年度に新たに活動開始した地区 1,143地区)

※調査対象:市区町村
※R3.4.1時点の集計値
(R4.4.1更新)

都道府県名	市区町村数	地区数
北海道	8	67
青森県	3	59
岩手県	6	36
宮城県	7	372
秋田県	2	2
山形県	2	87
福島県	7	24
茨城県	8	30
栃木県	21	59
群馬県	6	33
埼玉県	9	149
千葉県	2	6
東京都	8	75
神奈川県	3	22
新潟県	5	165
富山県	5	11

都道府県名	市区町村数	地区数
石川県	5	140
福井県	16	806
山梨県	13	93
長野県	13	66
岐阜県	8	86
静岡県	4	123
愛知県	10	32
三重県	10	79
滋賀県	7	170
京都府	6	17
大阪府	10	354
兵庫県	12	372
奈良県	5	7
和歌山県	1	1
鳥取県	3	10
島根県	4	18

都道府県名	市区町村数	地区数
岡山県	6	101
広島県	4	120
山口県	4	107
徳島県	4	16
香川県	9	24
愛媛県	7	66
高知県	3	60
福岡県	7	72
佐賀県	1	2
長崎県	2	177
熊本県	10	369
大分県	2	367
宮崎県	5	23
鹿児島県	12	99
沖縄県	5	7
合計	310	5,181

出典：内閣府資料

地区防災計画書

大規模地域防災計画 資料編
③-1 地区防災計画 (安渡地区津波防災計画 (平成25年10月策定))

安渡地区津波防災計画

目次

- 3.11の教訓とルール
 - 避難行動
 - 避難所運営
- 安渡町内会の防災組織図
- 今後の予防対策
- 検討会参加者

設置し、2012・13年度の全11回の「検討会」、13年4月19日の「大規模町長への計画案報告会」、同8月4日の「住民懇談会」、同9月の「住民意向調査」等を経て、この新しい防災計画を作成した。

今後とも、自然災害に決して断絶せず、3.11の教訓を次世代に継承し、地域防災力の向上を図ることを肝に銘じるものである。

目次

1 3.11の教訓とルール	2
(1) 避難行動	2
(2) 避難所運営	6
2 安渡町内会の防災組織図	10
3 今後の予防対策	12
4 検討会参加者	12



写真 大規模な津波を襲う巨大津波
(2011年3月11日、後半は津波発生後、津波は巨浪を襲った)

資料編77

大規模地域防災計画 資料編
安渡地区津波防災計画 (2013年10月策定)

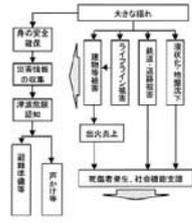
■ 1 3.11の教訓とルール ■

(1) 避難行動

1) 3.11での避難行動の教訓

3.11での安渡地区住民の避難行動について、アンケート・ヒアリング・検討会での協議結果等をもとに、その教訓と論点を抽出した。

なお、避難行動の要因分析の手法は資料編第3章に、犠牲者を対象とした「死亡状況調査」の速報は資料編第4章に収録する。

被災・対応の流れ	避難行動の教訓と論点
<p>(1) 地震直後～10分程度</p> <p>大きな揺れによるわが町の被害の様子と、それに対する住民、地域社会による対応をイメージします。</p> 	<p>(地震発生後の避難開始時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 5分以内134%、10分以内166%、20分以内184%、逆に21分以上19%【ア】。 <p>(避難の信念)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地震発生時にいた場所が危険だと思った」(51%)、「地震の後、津波が来ることを知っていた」(47%)人は早く避難した【ア】。 沿岸部に近い事業所や保育園、高齢者等が率先避難した【イ・ロ】。 <p>(避難の流れ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難が遅れた人の49%は「地震発生直時にいた場所まで津波が来るとは思わなかった(「想定外」)」【ア】。 道路渋滞・要援護者の存在・安否確認・低地への戻り等で逃げ遅れた【ア・ロ・ハ】。 犠牲者のうち、自宅避難しなかった、あるいは逃げ遅れて自宅付近にいた人が2/3に上る【ロ】。 <p>⇒「想定外による逃げ遅れ」をいかに防ぐか? ⇒夜間での要援護者支援は可能か?</p> <p>(避難のきっかけ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害情報(防災行政無線等)、声かけに促された人は少なかつた【前者15%、後者20%】【ア】。 津波を見に行き、逃げ遅れた【イ・ロ】。 <p>⇒避難のきっかけをどう提供できるか?</p>

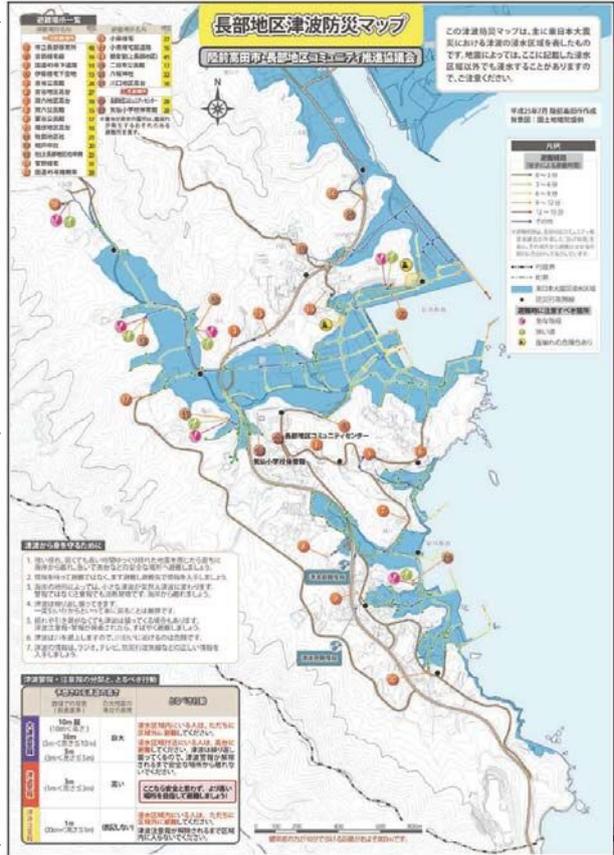
【凡例】ア：アンケート結果、ロ：ヒアリング結果、イ：検討会、他：その他

資料編78

出典：内閣府資料

地区防災計画書

<h2>長部地区防災計画書</h2>	
<p>目次</p> <p>1 計画の対象地区の範囲</p> <p>2 基本的な考え方</p> <p>3 地区の特性</p> <p>4 防災活動の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災活動の体制および班編成 ・ 平常時の活動 ・ 発災直後の活動 ・ 災害時の活動 	<p>1. 編成の範囲</p> <p>2. 計画の目的</p> <p>3. 地区の特性</p> <p>4. 防災活動の内容</p>



出典：内閣府資料

事例紹介

- 岡山県津山市城西地区
 - 地区防災計画書の策定経緯とその効果
- 倉敷市真備町川辺地区 “黄色いタスキ大作戦”
 - 誰もが参加しやすい工夫
 - 地域の復興と防災活動

津山市城西地区の取り組み

- ・人口約10万人（4万世帯）
- ・津山城（鶴山公園）は、日本の「さくら名所100選」に選定
- ・津山まなびの鉄道館内の「旧津山扇形機関車庫」は、わが国に現存する扇形機関車庫の中で2番目の規模
- ・町内会数365町内会（44支部）
- ・自主防災組織率は100%



感動でいっぱい、笑顔でいっぱい。
寺山本町の魅力を伝える旅、津山まなび

津山市城西地区の取り組み経緯



人口約5千人/2千世帯
高齢化率35%

平成8年～「津山・城西まるごと博物館フェア」 年1回開催

平成19年 城西公民館完成

平成21年 つやま城西ほりおこし隊 結成

平成23年 城西まちづくり協議会 組織化

平成28年 内閣府地区防災計画モデル事業

令和2年1月 岡山県地区防災計画モデル事業/地区防災計画作成



地区防災計画書作成の機運は自然に

- 平成28年11月からモデル地区に選定されたことにより、月1回の定例会議を開催。
- 災害の状況をイメージできるような教材を使った研修や実働訓練（年1回）を実施。



- 防災の取組みを始めたことにより、台風で地域の方がポツリポツリ避難してくるようになり
 - 「来てもらっても毛布1枚無い」
 - 「いつ、誰が、何を決断し、誰が行動するのか」

津山市城西地区防災計画

津山市城西地区防災計画

津山市城西地区防災計画

2020/6/16
ワークショップ形式でこの内容を見直すべきかを意見出し。



平成10年 台風10号により浸水被害を受けた西寺町町内

「この計画書は私たちの地域の防災の教科書です。定例会ではこれをもとに話し合いますので、毎回持参してください。」

1	2	3	4~5	6	7	8~10	11~21	22	23~24	
1	2	3	4. 各町内の特徴・強み・弱み	5. 城西支部自主防災防犯協議会 組織図	6	7	8~10	11~21	22	23~24

令和2年1月

城西まちづくり協議会



◆別添
資料編（様式集）

1. 備蓄している防災用品
2. 町内別受付簿
3. 避難所入所者カード
4. 西小学校全体図
5. 西小学校教室配置図
6. 避難所配置想定図
7. 城西見守り台帳

■参考資料

- * 台風10号災害
【城西地区の記録 平成10年10月】
- * 町内回覧チラシ（平成30年9月回覧）
「災害時に命を守る一人一人の防災対策」
- * 津山市城西地区防災マップ

資料編（様式集）

1. 備蓄している防災用品
2. 町内別受付簿
3. 避難所入所者カード
4. 西小学校全体図
5. 西小学校教室配置図
6. 避難所配置想定図
7. 城西見守り台帳

- 参考資料
- * 台風10号災害
【城西地区の記録 平成10年10月】
 - * 町内回覧チラシ（平成30年9月回覧）
「災害時に命を守る一人一人の防災対策」
 - * 津山市城西地区防災マップ

令和2年1月

城西まちづくり協議会



令和2年11月防災訓練実施にみる地区防災計画の効果

- 毎年11月に実施してきた防災訓練(避難所運営) → 実施? 中止?
- 訓練実施にあたっては、密な打ち合わせが必要 VS 感染対策

新型コロナウイルス感染拡大による 極端な環境変化をポジティブに



密を避けるためにはどうすれば
よいか? 練習が必要!



地区防災計画書に記載のある班
別に少人数で打ち合わせ



当日の運営も班毎にできるよ
うなブースタイプへ



極端な社会環境の変化に対する地区防災計画の効果

- 新年度の部会員の交替によるノウハウの引継ぎ
 - 地区防災計画書に一定のルールが蓄積されていることから、計画書が新旧の部会員のつなぎ手となり、活動が継続
- 新型コロナウイルス感染拡大による極端な社会環境の変化にも目標志向性と凝集性が維持された
 - 文書化の過程で意思決定プロセスを経験
 - 計画書に役割分担やノウハウが蓄積されていた



弊害

ひな型・画一化・形骸化

文書化

活動の継続性

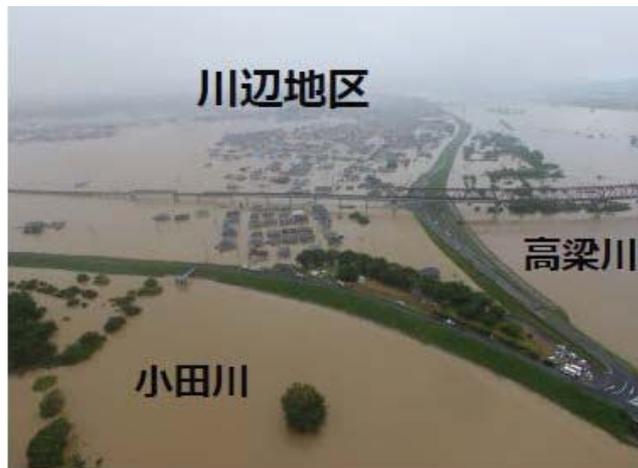
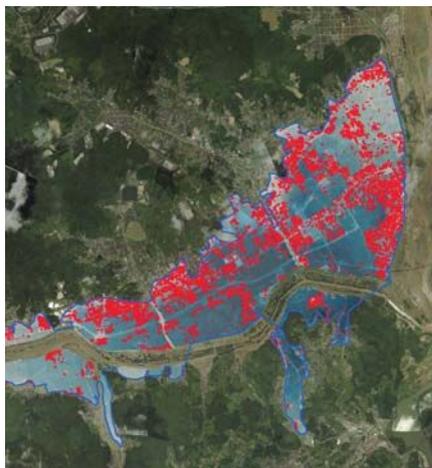
効果



事例紹介

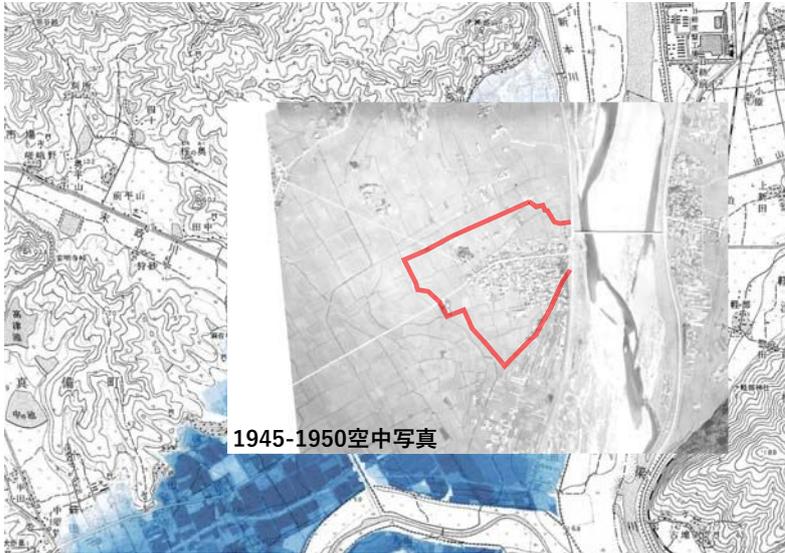
- 岡山県津山市城西地区
 - 地区防災計画書の策定経緯とその効果
- 倉敷市真備町川辺地区 “黄色いタスキ大作戦”
 - 誰もが参加しやすい工夫
 - 地域の復興と防災活動

平成30年7月豪雨における川辺地区



- 川辺地区では6名が犠牲に
- 同地区は、ほぼ全域が浸水し、ほとんどの住居が全壊（床上1.8m以上の浸水）
- 大半の住民が川辺地区以外の仮設住宅へ転居し、地域の繋がりを継続することが困難に

倉敷市真備町は水害と共に歩いて来たまち



1945-1950空中写真

1965-1970地形図に平成30年7月豪雨災害の浸水区域を重ね合わせ
出典：地理院地図



明治23年大洪水と平成30年7月豪雨
慰霊碑



上：川辺分館駐車場
下：源福寺

2018年	2019年	2020年
7月 発災	3月 真備地区復興計画策定	1月 COVID19感染脅威拡大
10月	6月	5月
川辺復興プロジェクトあるく等、住民有志による取り組みの立ち上がり	第1回 川辺みらいミーティング	第3回 川辺みらいミーティング
	第2回 川辺みらいミーティング	第4回 川辺みらいミーティング
参加者約80名：住民有志が集まり現在の困りごとや取り組みたいことなどを共有。	参加者約60名：災害時に1人1人が取るべき行動を時系列でまとめる「マイ・タイムライン」を検討。	第4回 延期
		第4回 川辺みらいミーティング
		参加者約80名：当時の行動記録の作成と自助・共助の対応策をグループワークで意見出し。
		参加者対面30名・オンライン30名：アンケート結果報告会を少人数の対面とオンライン配信併用で実施。
		会議やイベントの代替として家庭での備えを啓発するチラシ配布とアンケートの実施

2020年	2021年
10月	1月 COVID19第3波拡大
11月	1月
川辺小学校5年生防災まちあるき授業	第6回 川辺みらいミーティング
	第7回 川辺みらいミーティング
防災おやこ手帳の作成。被災の教訓を共有し、広く伝える取り組みの実施。	参加者50名：川辺地区を4分割して防災まちあるきを計画。各家庭での避難の促進と町内会単位での活動への展開を模索。
	参加者対面10名（発表者・スタッフ）・オンライン30名：川辺小学校と合同で防災マップ発表会。児童は発表動画で参加。
	安否確認訓練（黄色いタスキ大作戦）。川辺地区全住民の内、約7割が参加！

つながりの 結いなおし

- 地域を共にするすべての人にタスキを
- 川辺地区全体で同じ目標を共有することで、つながりの結いなおしに
- 町内会の再編が難しい場合はオール川辺でフォロー
- たかがタスキ、されどタスキ!!



令和2年度岡山県中級市民防災型協議事業

目指そう！逃げ遅れゼロの川辺地区

お隣さんは無事かな？

黄色いタスキ大作戦

平成30年7月西日本豪雨の際に、「お隣さんが無事なのか心配だった。」「避難したかどうかかわらず、声掛けに時間がかかった。」などの声をたくさん聞きました。そこで、「我が家は、避難しました！無事です！」と一目見て分かる安否確認グッズを川辺地区全域に配布することにしました。

川辺地区の「黄色いタスキ」ルール

1. 「無事です」のタスキが、「避難した」のサイン。
2. 平時は玄関などの目につく場所や非常時持ち出しバッグに結んで保管。
3. ドアノブがある場合はドアノブに、ない場合は、玄関付近の目立つところに結びつける。

※水害時→避難する前に、玄関付近の目立つところに結ぶ
※地震時→けが人もなく、家族全員が無事であれば、玄関付近の目立つところに結ぶ

結びやすく、目立つ色。
ご近所さんはもちろん、町内会長さんや自主防災リーダーさんなどが安否確認する際にも役立つ！

緊急時タスキが玄関先にないお宅に声掛けをしましょう。

黄色いタスキがない方は、何らかの事情で困っている場合があります。警戒レベル4、もしくは地震の余震がおさまったら迷わず「大丈夫ですか？お手伝いできることありますか？」と、ご近所同士で声掛けをしましょう。

川辺地区の住民みんなできちんと！

令和3年度には、この「黄色いタスキ」を使った防災訓練をします。ぜひご参加ください。

まちづくり推進協議会・環境衛生協議会・老人クラブ・安否委員会・民生委員・児童委員・地区社会福祉協議会・災害改善協議会・川辺小学校PTA・川辺幼稚園PTA・川辺分館管理組合・倉敷消防団第3分団第3班（川辺消防団）・婦人会・川辺みらいミーティング実行委員会

監修：香川大学 樋打千穂子先生 / 発起人・事務局：川辺復興プロジェクトあるく / 問い合わせ先：080-5752-0111

タスキで乗り越える3つの壁



①遠慮・期待の壁

いざ、声かけしようとしても「急に声かけしてお邪魔じゃないだろうか」「きっと避難しているはず」といった考えが頭に浮かび、声掛けを躊躇してしまう。

②プライバシーの壁

「そんなに親しい間柄じゃないのに、訪問して不審がられるんじゃないだろうか」とお互いの生活を尊重するばかりに、一歩ふみこめない。



③日常・非日常の時間の壁

「自分が災害にあうはずがない」「忙しいのに防災対策まで考えていられない」など、やらなくて良い理由に阻まれる